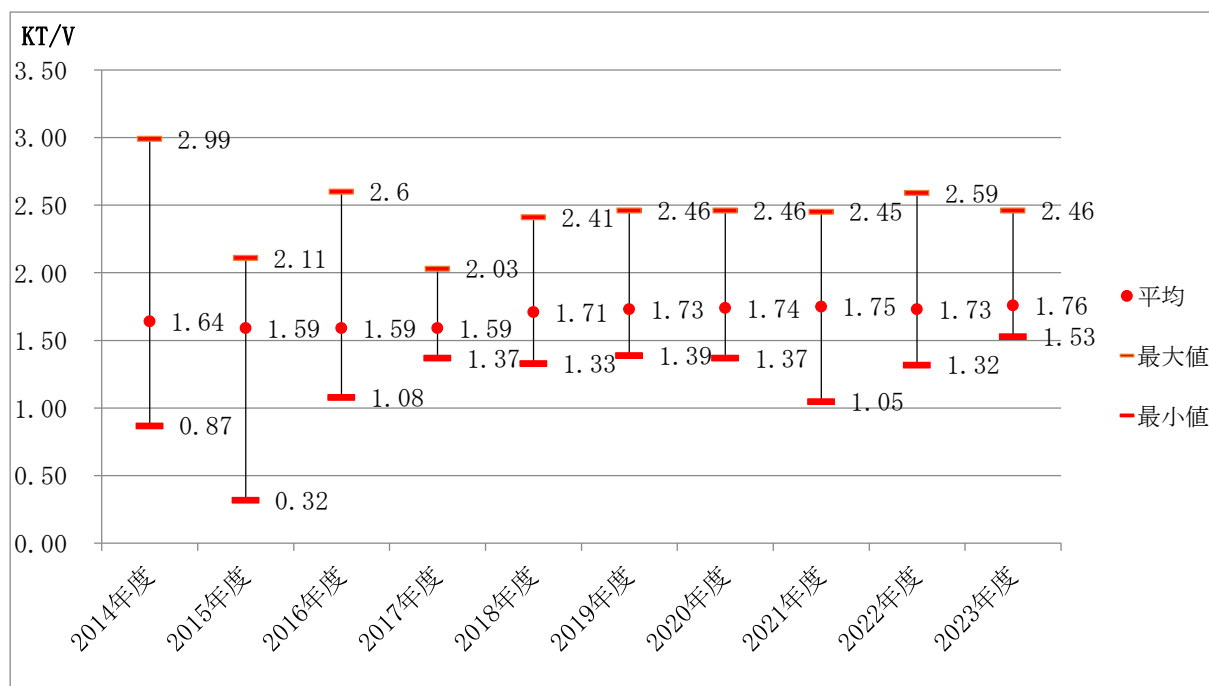


## 維持透析患者の透析効率



日本透析医学会のガイドラインでは、最低限の尿素透析量として  $Kt/V1.2$  が推奨され、目標とすべき尿素透析量としては  $Kt/V1.4$  以上が望ましいとされています。十分に高い  $Kt/V$  を維持することで、患者の生命予後のみならず、合併症予後も改善することが期待できます。2023年度の当院の維持透析患者の  $Kt/V$  平均値は1.76であり、高い透析効率を維持しています。当院では毎月  $Kt/V$  を算出し1.4未満であった場合は、多職種によるカンファランスにて治療モード、血液流量、血液浄化器、透析時間等の透析条件を見直し、透析効率の向上に努めています。

2022年度より超音波診断装置を導入し、バスキュラーアクセスの形態学的評価を開始しました。バスキュラーアクセスの良否は透析効率に影響するため、超音波検査により定期的な評価をし、早期に血流不良を回避する処置をすることによって、良好な  $Kt/V$  値が確保できていると思われます。

また、透析不足を補う意味で血液透析を週1回併用している腹膜透析患者の  $Kt/V$  ついても今後注視していきたいと考えています。

データ提供 血液浄化センター